

経鼻上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査：説明と同意書

1. 今回の検査の目的： 食道・胃・十二指腸などの上部消化管に病気がないかを確認します。飲み込みが悪い場合、その原因が見つかることもあります。胃癌や胃潰瘍の原因になるピロリ菌が見つかることもあります。

2. 検査の方法： 鼻粘膜に麻酔をした上で、細い軟らかい管（内視鏡）を鼻から入れて、食道、胃、十二指腸の観察を行います。病変の存在が疑われる場合はさらに詳しく調べるために、色素を散布したり、組織の一部を採取（生検）したりすることがあります。

3. 今回の検査に伴う危険性・偶発症（最善を尽くしても一定の確率で起こる事象）

日本消化器内視鏡学会の全国調査による主な偶発症とその頻度は以下の通りです。

	偶発症の頻度	死亡の頻度
全処置（注射、麻酔など）による偶発症 （アレルギー、ショック、呼吸抑制など）	0.0037% （約 2.7万 件に 1 回）	0.00009% （約 111 万件に 1 回）
生検を含む通常の内視鏡検査における偶発症 （出血、穿孔、誤嚥など）	0.005% （約 2 万件に 1 回）	0.00019% （約 52 万件に 1 回）

血液をサラサラにして固まりにくくする薬を使用していたり、血液や肝臓などの病気で血液が固まりにくい持病がある場合は、検査や生検の後で出血が止まりづらいことがあります。内服薬や持病がある場合には、**必ず検査前**にお知らせください。

偶発症が起きた場合には最善の処置を行います。点滴や入院・輸血・緊急手術などが必要となったり、ごく稀に死亡の報告例があります。

4. 検査(治療)後： のどの状態が落ち着くまでの1～2時間は飲食しないでください。その後少量の水を飲んでいただき、むせがなければ食事を開始してください。生検を行った場合、検査当日はアルコールや刺激物は避けるようにしてください。後で鼻血が出て処置を要することがあります。検査後に腹痛や黒い便が続く場合は病院にご連絡ください。色素による検査を行った場合は一時的に胸やけがしたり、便や尿が青くなるがありますが、一時的なもので心配はいりません。

5. 費用について： 治療費は合併症が発生した場合も含め、健康保険の適応となります。

6. 撤回と保留： 検査の説明を聞かれて、同意されない場合は保留や中止することも可能です。

以上、説明を受け納得しましたので同意し署名します。

年 月 日

患者氏名 _____

患者代理人氏名 _____ 続柄 ()

同席者氏名 _____ 続柄 ()

説明医師氏名 _____

同席看護師氏名 _____